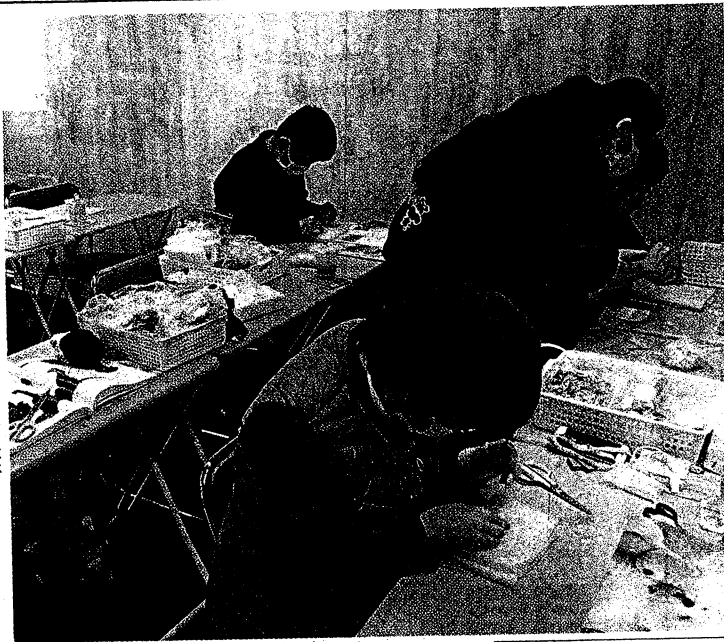


障害者B型利用者の満足度

工賃より個別支援



「のあ」には、引きこもりの人など外に出るのが難しい人も受け入れている



「のあ」の作業製品

精神障害者が通う作業支援協議会(戸高洋充 代表)は8日、障害福 業所などで構成する全 社サービスの就労継続 国精神障害者地域生活 工賃の高さと利用者の

満足度に関係がないと 携わった吉田光爾・東 洋大教授は「B型事業 所が工賃を上げる努力 をしながら良い訳では ないが、工賃だけを事 業所の評価基準にする のは妥当と言えないだ ろう。多様な障害者の 『働きたい』という思 いをかなえる仕組みづ くりが大事だ」とみて

【ことば】 就労継続支援B型事業Ⅱ 一般就労の難しい人が福祉サ ービスを受けながら働く訓練をする事業。雇 用契約は結ばない。事業所に入る基本報酬 は定員規模別に設定されていたが、18年度 からは利用者に払う平均工賃(月額)の額 に応じたものになった。19年11月現在、B 型利用者は約26・7万人で、知的障害者が 約半数、精神障害者が約3割を占める。事 業所数は1・3万カ所。費用総額は353 1億円で、障害福祉サービスの中では2番 目に多い。

れば平均工賃は当然低 いと思える仕事」も用 意。特に羊毛で犬のス トリップを作る作業は 人気という。 その結果、この3年 間で、週1日通うのが やつとだった人が、浮 き沈みがありながらも 週5日通えるようにな る例など、工賃では測 れない成果もあった。 「もちろん工賃も上 げたい。今秋には大と 触れあえる喫茶店を開 設し、工賃増を目指す」と上原さん。一方、安 定して通うのが難しい 人を今後も受け入れ続 けられるかという不安 も抱える。(福田敏克)

調査は19年9月〜12 月、全国のB型事業所 のうち主に精神障害者 が通う140カ所を 対象に実施。312事 業所から901人分の 利用者票が返ってき た。 この901人を事業 所の平均工賃(月額) により「8700円未 満」「8700〜1万 5000円」「1万5 000円以上」の3群 に分けて満足度を尋ね たところ、32点満点で 中央値がそれぞれ26、 26、27と大差はなかつ た。

また、満足度の高い 利用者群(27点以上) は低い利用者群(26点 以下)よりも、個別に 支援を受けた時間が月 平均で約592分長い ことが判明。生産活動 の中で、職員が集団で

はなく一人ひとり個別 に向き合う時間の長さ が満足度に関係するこ とが読み取れた。 厚生労働省による と、全国のB型事業所 が18年度に支払った工 賃の平均は月額1万6 118円。全国的に上 がりつつあるが、50 00円を下回る事業所 が全事業所の約6%あ るとし、引き続き工賃 アップするよう呼び掛 けている。 その「6%」に該当 するB型事業所「のあ (横浜市)」は16 年8月の開所以来、低 工賃が続いた。現在は 5000円。通う日数 の少ない人も受け入れ てきたからだ。 平均工賃は支払い総 額を支払い対象者数で 割ったもの。作業日数 の少ない利用者が多け